

あぐりめ〜る新川

第35号（平成19年7月発行）
富山県新川農業普及指導センター
〒938-0801 黒部市荻生 3200
(TEL) 企画調整課 (0765) 52-0268
園芸畜産課 (0765) 52-5192
地域普及課 (0765) 52-0094
〃 (0765) 52-0945
(FAX) (0765) 52-3115

受光体勢を整え高品質で売れる米づくりを！！

～ 適正な水管理と的確な穂肥施用で稲体の活力維持 ～

今後の水稻の管理は、たとえ登熟期の高温や強風等の気象に見舞われても、米の品質が低下しないよう、受光体勢の良い“がっちり”とした稲に誘導するとともに、水管理や穂肥施用などの栽培管理を的確に行いましょう。

1. 出穂までは「間断かん水」で活力維持

出穂までは、間断かん水（1日湛水、2～3日落水）を行い、根に水分と酸素を与えて活力を高めます。特に今年は、梅雨入り曇雨天の日が多く、日照時間の少ない状態が続いていることなどから、草丈は長めで茎数の減少や葉色の低下が緩慢となっているほ場が多く見られます。このようなほ場は、間断かん水の落水期間を長くし、強めの田干しにより受光体勢の良い姿に改善して下さい。

2. 適正な籾数と登熟期間の活力維持

過剰籾数は、品質低下を招く要因となることから、適正な籾数 28,000 粒/㎡に誘導することが大切です。また、穂揃期の葉色が淡いと、登熟期後半に稲体の活力が低下し、白未熟粒の発生が多くなる傾向が見られます。

コシヒカリの穂揃期の葉色
4.2～4.5（砂壤土では、4.5）

管内では、コシヒカリ全量基肥施用の面積割合が50%強となっています。これらのほ場は、原則として穂肥施用の必要はありません

が、土壌条件等により穂揃期の葉色 4.2～4.5 を確保できない場合は、事前に穂肥を施用します。

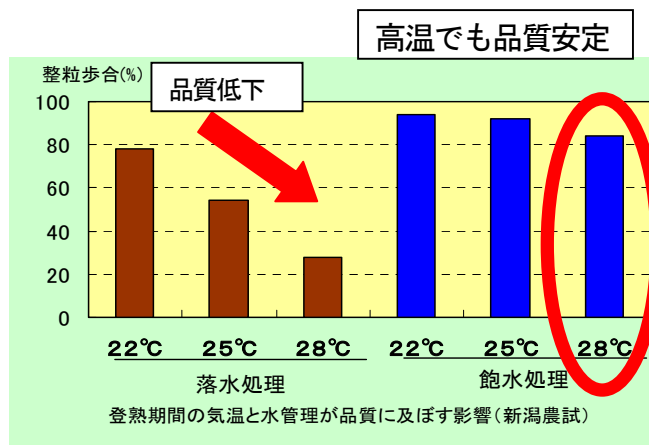
なお、分施する場合は、幼穂長 15mm となる出穂 15 日前が第1回目の穂肥の時期となります。的確な穂肥の施用により、登熟後半までの稲体の活力維持を図りましょう。

3. 出穂後20日間の湛水管理で活力維持

近年、出穂後の気温が高いので、特に土壌水分が不足となった場合に白未熟粒の発生などを助長する傾向があります。

出穂から20日間は、籾にデンプンが蓄積し、粒や重さが増加する重要な時期となります。

このため、出穂後20日間は、ほ場の水を切らない、湛水管理を行い、籾の充実を図りましょう。



新たな園芸有望品目の紹介

～新たな特産化を目指して～

近年、消費者ニーズの多様化が進む中で、流通関係者からは、地域の特色を活かした新しい品目の開発と産地化が期待されています。

このことから、普及指導センターでは流通機関と連携し、消費者ニーズを先取りした新たな品目・作型について、生産から販売に至るまでの実証を行っています。

今回は、その実証結果の中から有望な品目を紹介します。

1 なばな “これからでも間に合う有望品目！露地でもハウスでもOK！！”

(1) 品目の特徴

“なばな”は健康野菜（抗酸化食品）として注目されている緑黄色野菜であり、また、季節を感じる野菜として消費が年々伸びている品目です。

県内ではコマツナなどの“トウ”が春に出荷されていますが、年内どりや冬期間の生産はまだまだ少なく、市場等から生産の要望が多い品目です。



(2) 栽培の特徴

初心者でも比較的容易に取り組むことができる品目であり、露地でもハウスでも栽培が可能です。また、作型や品種の組み合わせによって、長期間の収穫も可能です。

【露地】播種時期：8月中旬～9月中旬 → 収穫時期：10月中旬～12月下旬

【ハウス】播種時期：9月中下旬 → 収穫時期：12月上旬～1月下旬

10月中旬 → 1月上旬～2月下旬

10月下旬 → 2月上旬～3月下旬

2 えだまめ（黒豆早生種）“良食味品種と高鮮度で極上の味わい”

(1) 品目の特徴

近年、良食味の黒豆種“えだまめ”の人気の高まっており、鮮度を活かした有利販売が可能な品目です。

(2) 栽培の特徴

大豆の栽培機械が活用できることから、主穀作経営体取り組みやすい品目です。播種期を組み合わせることで、労力に応じた栽培面積が可能となるとともに、長期継続出荷に取り組むことができます。

【富山県推奨品種】「たんくろう」、「黒船」

【作付体系】直播：5月上～下旬播種→7月下旬～8月下旬収穫

移植：4月播種→4月下旬～5月中旬移植→7月収穫

また、栽培日数の異なる品種（「濃久丸」、「快豆黒頭巾」等）を組み合わせることで、同日播種での収穫期間拡大が可能になります。

※全農とやまでは、朝どりしたえだまめを集荷選別・袋詰めし、その日のうちに販売する「新鮮えだまめ販売システム」を実施しています。



3 ミニとうがん “まるごと食べ切りサイズのヘルシー野菜”

(1) 品目の特徴

“とうがん”には、ダイエットや糖尿病の改善、血圧の安定に効果があるといわれ、近年注目を集めている品目です。しかし、従来の大きい“とうがん”は食べきれないため、スーパーではカット販売が主流となっています。このような中で、近年、1.5kg程度のミニとうがんの品種が各種苗会社から発売されており、消費者からも高い評価を得ています。



(2) 栽培の特徴

“とうがん”は土地利用型の品目であり、栽培も比較的容易であるため、初心者でも取り組みやすく、収穫後の短期保存も可能であることから、定量的な販売が可能な品目です。

着色管理や収穫作業を簡略化するために、ハウスのパイプを利用したアーチ栽培も取り入れられています。

【作型】 播種3月下旬—定植5月上旬—収穫7月中旬～9月中旬



4 アスター “アレンジメントにも使える小輪系が人気！！”

(1) 品目の特徴

中国北部、朝鮮半島原産のキク科の1年草。お盆用花きの定番品目ですが、従来の中輪系に比べて、用途が多彩でフラワーアレンジメント等でも利用できる小輪系品種が注目を集めています。白、紫、赤など色のバリエーションが豊富なことや、多花性でいろいろな花に合わせやすいことから組花によく利用されます。



(2) 栽培の特徴

分枝が旺盛な品種を用いると、ピンチ栽培により1株あたり5～7本収穫できます。育苗施設がない場合にはプラグ苗を購入することもできます。連作に極端に弱いため、アスターを栽培したことがなく、排水がよい圃場を選ぶ必要があります。

【作型】 播種4月上旬—定植5月上旬—収穫8月上旬



環境に優しい農業を推進しましょう。

～エコファーマー認定は、環境にやさしい農業への第一歩～

近年、環境問題に対する社会的な関心や消費者の農産物に対する安全志向が高まっていることから、県でも「富山県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」や「エコ農業実践マニュアル」を策定（県のホームページで公開中）して環境にやさしい農業を推進していきます。

1 エコファーマー制度とは！！

エコファーマー制度とは、「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、たい肥等を活用した土づくりと化学肥料・農薬の使用の低減に一体的に取り組む農業者を県が認定し、支援する制度です。

2 あなたもエコファーマーになりエコ農業宣言！！

エコファーマーに認定されると農産物に添付するシールや包装容器、名刺等にエコファーマーマーク（右図）を表示することができ、環境にやさしい農業に取り組んでいることをアピールできます。

新川地区では、平成19年6月現在の認定者数は50件（富山県全体1,452件）と少ない状況にあるので、あなたもエコファーマーになって環境にやさしい農業の取り組みを積極的に推進していきましょう。

また、この他に特例の対象となる農業機械（堆肥等施用技術に関する機械など）の導入に際し農業改良資金（無利子）の貸付けを受けることも可能です。更に本年から始まる「農地・水・環境保全向上対策」で、先進的営農活動に取り組んだ場合、支援を受けることもできます。

3 認定を受けるには！！

エコファーマーの申請は普及センターで随時受け付けています。認定を受ける計画は対象作物や面積、導入する技術、資材施用量などの項目について、概ね5年間の実現可能なものを記載します。

経営規模の大小は問いませんが、県が定める認定指針に基づき、

- ◆表1の3つの技術区分に該当する技術をそれぞれ1つ以上導入
- ◆計画期間中作物の作付面積の5割以上にその技術を導入する必要があります。

なお、詳しいことは普及センターに相談下さい。

表1

技術区分	技術内容
たい肥施用技術	①たい肥等有機質資材の施用技術 ②緑肥作物の利用技術
化学肥料低減技術	①局所施肥技術（例えば、水稻での側条施肥）②肥効調節型肥料施用技術 ③有機質肥料施用技術（油かす、骨粉等）
化学農薬低減技術	①温湯種子消毒技術 ②機械除草技術 ③除草用動物利用技術 ④生物農薬利用技術 ⑤対抗植物利用技術 ⑥抵抗性品種・台木利用技術 ⑦土壌還元消毒技術 ⑧熱利用土壌消毒技術 ⑨光利用技術 ⑩被覆栽培技術 ⑪フェロモン剤利用技術 ⑫マルチ栽培技術

表2

対象作物	主穀作（水稻、大豆、大麦）、野菜（白ネギ、サトイモ、トマト、キュウリ、ナス、だいこん、かぶ、キャベツ、はくさい、にら、軟弱野菜、アスパラガス、ハーブ類）、果樹（日本ナシ、リンゴ、カキ、ブドウ、イチジク、モモ、ウメ）、花き（キク類、バラ、ユリ、チューリップ）
------	--

